

2-5 日の長さが花芽の形成に及ぼす影響は

- ①日がある程度長くなると花芽が形成される
- ②日がある程度短くなると花芽が形成される
- ③日長には影響なく花芽が形成される

前項(2-4)に落花生の花芽が形成されるのは出芽前～直後と書きました。極早生のタチマサリでは播種前の種子で既に花芽ができています。これらのことから花芽形成に日長が関与してないことが容易に想像できますね。そうです、正解は③になります。

ちなみに、植物も含めて生物の反応が日長の周期的な長短により影響を受ける現象を光周性と呼び、毎年各季節での生物の適切な反応行動を引き起こす要因の一つとなっています。長日植物は、正確にいうと暗期が一定以下に短くなる周期が必要なため、「短夜植物」と言うのだそうですが、長日と短夜の表現の差異は？。頭がこんがらかります。

さて、①のような植物を長日植物と呼び、アブラナ、ホウレンソウ、コムギなどが該当します。春から夏にかけて花の咲く植物に多いようです。また、②のような植物を短日植物と呼び、アサガオ、キク、コスモスなどが該当します。秋咲きの植物に比較的多いようです。一方、③のような植物は中性植物と呼んで、トウモロコシ、キュウリ、トマト、エンドウそしてラッカセイなどが該当しています。咲く季節との関係は特にはないようです。

中性植物は英語ではneutral plant若しくはday-neutral plant と表記します。day-neutral plantの表記は丁寧な気がしますが、日-中性植物はどうでしょうか。日-長日植物、日-短日植物、定義が丁寧すぎるかもしれませんね。

正解 ③